

放送大学の社会教育主事講習について

中央教育審議会 社会教育人材部会

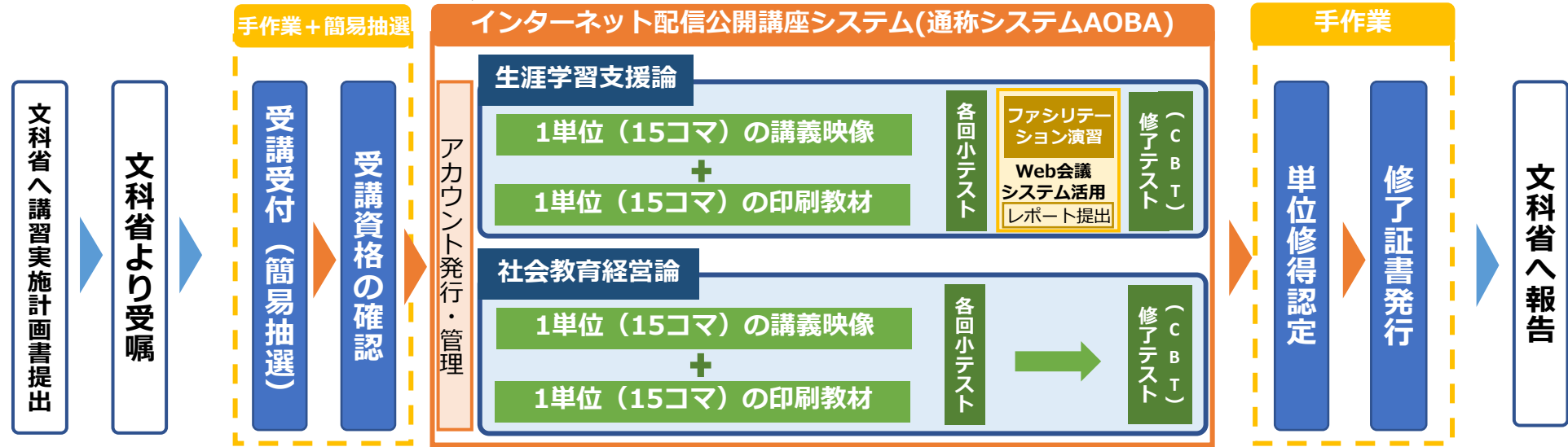
2023.11.13

放送大学

I . 概要

1. 放送大学での実施方法（イメージ）

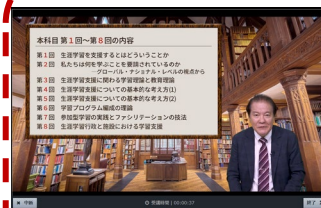
対象者：主として社会教育主事となる資格を得るために修得すべきすべての科目を履修している者
 全国の受講希望者への対応を、既存の教材やシステムを活用して実施。



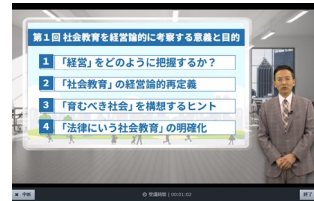
②オンライン演習
 受講受付ページ
 (申込み、抽選)



インターネット配信
 公開講座システム



生涯学習支援論
 講義映像



社会教育経営論
 講義映像

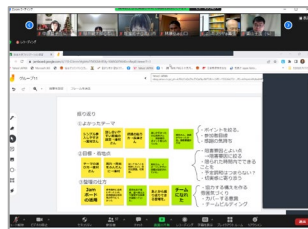


印刷教材

①教材作成



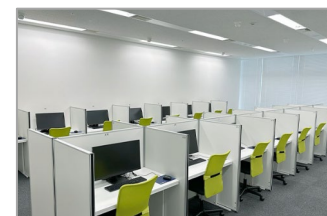
ファシリテーション演習 (ZOOM)



各回小テスト



各回小テスト



修了テスト (CBT)会場

③質保証

2. 放送大学の社会教育主事講習（SWOT分析）

【強み：strengths】

- ・通信制のノウハウがある。
- ・教免更新講習のオンライン講習の実績がある。
- ・教材をオンラインで提供できる。
- ・公的性格を有する機関である。
- ・全国に学習センター・サテライトを有する。
- ・作成した教材を繰り返し使用可能である。

【機会：opportunities】

- ・社会教育士の移行措置への対応が社会的に求められている。
- ・放送大学の公的存在の意義を主張できる。
- ・教材開発研究の試みができる。

【弱み：weaknesses】

- ・通学制の大学ではない。
- ・単位数（各4単位）を全学的に確保できないため養成課程の設置ができない。
- ・教材制作に時間がかかる。

【脅威：threats】

- ・正規学生と同様の情報プラットフォームが使用できない。
- ・大学内部の既存の事務体制で対応している。
- ・担当者の人事異動により政策文脈や実務体制が変化する。
- ・経費がかかる。
- ・毎年申請し承認が必要である。

Ⅱ．教材開発

1. 教材開発の視点

社会構造の変化に
対応するマインドセットを変えること

高度情報社会：
縦構造→水平ネットワーク

- ・ 権力分散型の対等な人的ネットワーク
- ・ 情報の拡散
- ・ 市民運動

成人を対象とした
支援スキル

社会教育主事：
・ 青少年教育の指導は充実
・ 成人対象の支援スキルの付与が課題

【参考】高度情報社会の人材

課題：誰がマネジメントするか



	高度産業社会	高度情報社会
1. 主要な技術	機械技術	コンピュータ技術
2. 能力	身体的能力	精神的能力
3. 価値	物質的豊かさ	知識と情報の多寡
4. 社会構造	階層・官僚支配	権力分散型の対等な人的ネットワーク
5. 情報の様態	情報の集中	情報の拡散
6. 社会変動の中心	労働運動	市民運動
7. 職業	従来 of 職業	想像を超えた新たな職業

出典：Boucoulalas, M. "Learning Throughout Life: The Information-Knowledge-Wisdom Framework." *Educational Considerations*, 1987, 14(2-3), pp.32-38.一部追加。

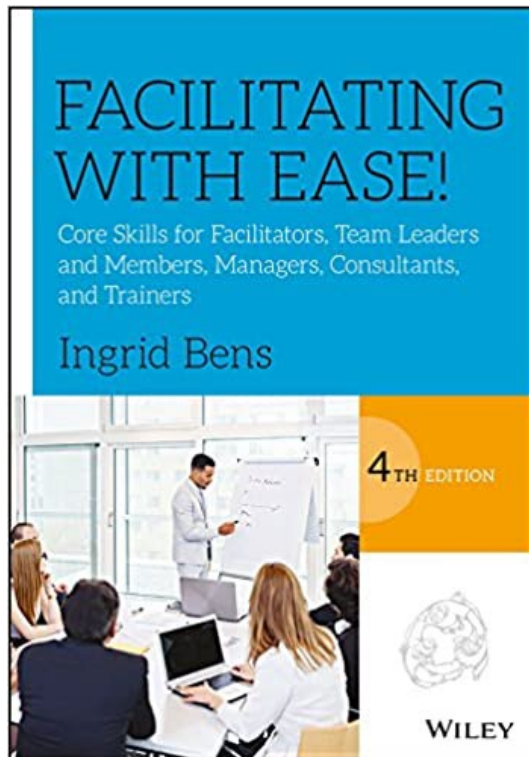
科研による検討（新たな社会教育主事講習へのファシリテーション技法導入の有効性に関する基礎的研究（20K02436））

- ・ 教材開発（米国でのファシリテーション）
- ・ 演習の他機関連携の有効性

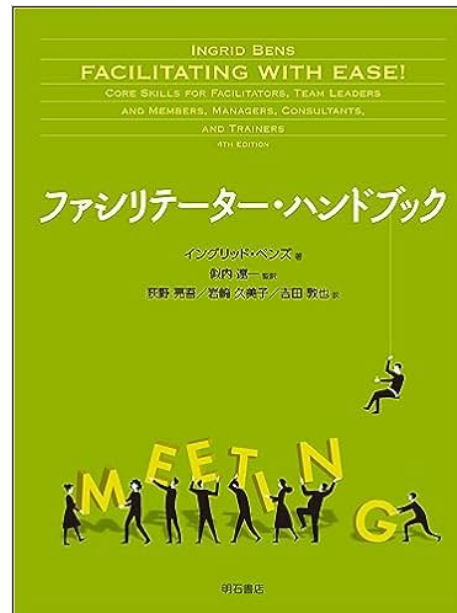
2. 教材開発研究

科研による検討（新たな社会教育主事講習へのファシリテーション技法導入の有効性に関する基礎的研究（20K02436））

- ・教材開発（米国のファシリテーション）
- ・演習における他機関連携の有効性



翻訳



【目次】

- 第1章 ファシリテーションを理解する
- 第2章 効果的な問いかけ
- 第3章 ファシリテーションの段階
- 第4章 ファシリテーションができる人
- 第5章 参加者を理解する
- 第6章 参加の場を生み出す
- 第7章 効果的な意思決定とは
- 第8章 対立のファシリテーション
- 第9章 ミーティングの運営
- 第10章 ファシリテーターのプロセスツール
- 第11章 話し合いの組み立て

ファシリテーター・ハンドブック 単行本- 2023/9/18 明石書店

イングリッド・ベンズ (著), 似内 遼一 (監修, 翻訳), 荻野 亮吾 (翻訳), 岩崎 久美子 (翻訳), 吉田 敦也 (翻訳)

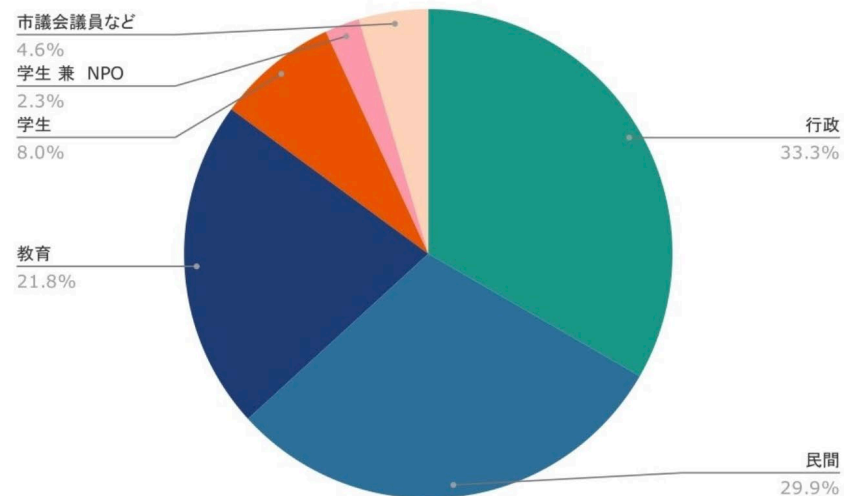
Japanese Local Governance and Management Training Program



まちづくり人材育成プログラム
4回（3時間）のオンラインセッション

JaLoGoMaで学べる5つのキーワード

- 住民が主体となる**まちづくりを行っていくための基本
1. 原則
 2. 自分の立ち位置からの **リーダーシップ**をとる要素 **イノベティブ**（革新的）な課題解決方法を見つけ出す
 3. 出す
 4. **パートナーシップ**を組むためのスキル
 5. 「**公正性**」の視点をもってまちづくりを考える



西芝 雅美 (Ph.D.)

Masami Nishishiba

<https://sites.google.com/view/jalogoma-psu/home?authuser=0>

3. 講師選定

(1) 「社会教育経営論」

(主任講師：佐藤春雄・佐々木英和「社会教育経営実践論('22)」)

【授業の目標】

本授業は以下の事項を目標とする。

- ①社会教育経営の意義と行政との関係を理解する。
 - ②社会教育施設や学習事業、社会教育計画など社会教育実践の在り方を各種事例も踏まえながら理解を深める。
 - ③学習者の学習動機や行動の実態を踏まえつつ、広報や社会教育評価などの実践的技法について理解する。
 - ④地域人材やNPO等との連携や地域学校協働活動などの最新課題に関する理解を深める。
- 以上の諸点を目標としつつ、社会教育経営の今後のゆくえを考える講義としたい。



社会教育経営実践論

佐藤春雄
佐々木英和

The Open University of Japan

各回のテーマ		各回のテーマ	
第1回	社会教育を経営論的に考察する意義と目的	第9回	学習事業の広報の在り方
第2回	社会教育行政の経営戦略	第10回	学習の成果活用と評価
第3回	社会教育行政と地域活性化	第11回	地域人材の活用と養成の在り方
第4回	社会教育施設の経営	第12回	社会教育経営に資する職員の技法
第5回	社会教育計画の企画・立案・実施	第13回	地域学校協働活動の組織と経営
第6回	社会教育事業の意義と評価方法	第14回	NPO・企業等との連携・協働
第7回	学習動機と学習課題の設定	第15回	社会教育の「経営」をめぐる今後の展望
第8回	学習プログラムの経営 －企画・運営の在り方と技法－		

(2) 生涯学習支援論

(主任講師：赤尾勝己・吉田敦也「生涯学習支援の理論と実践('22)」)



【授業の目標】

本科目で履修者は、人々の学習支援に関する各種の理論を学び、効果的な学習支援方法があることを理解し、現代的・社会的課題等に関する学習プログラムを編成、実施、評価する力をつけ、さらに参加型学習の実際と、そこでのファシリテーション技法の実例に触れて、人々の生涯学習を支援する力をつけることを目標とする。

各回のテーマ	各回のテーマ
第1回 生涯学習を支援するとはどういうことか	第9回 イノベーティブな学習支援技法 1 ：社会変革のファシリテーション
第2回 私たちは何を学ぶことを要請されているのか －グローバル・ナショナル・レベルの視点から－	第10回 イノベーティブな学習支援技法 2 ：学びを引き出す仕掛け
第3回 生涯学習支援に関わる学習理論と教育理論	第11回 イノベーティブな学習支援技法 3 ：まちを育てる住民活動
第4回 生涯学習支援についての基本的な考え方 (1)	第12回 イノベーティブな学習支援技法 4 ：幸福で健康な暮らしの創造
第5回 生涯学習支援についての基本的な考え方 (2)	第13回 イノベーティブな学習支援技法 5 ：時代が求めるリーダーシップ開発
第6回 学習プログラム編成の理論	第14回 イノベーティブな学習支援技法 6 ：テクノロジーの利活用
第7回 参加型学習の実際とファシリテーションの技法	第15回 イノベーティブな学習支援技法 7 ：時代を拓くまちづくり
第8回 生涯学習行政と施設における学習支援	

まちづくりにおけるファシリテーション
＝ポर्टランド州立大学との協働

Ⅲ. オンライン演習

1. 講習概要

<概要>

文科省から委嘱を受け、令和4年度から社会教育主事講習（一部科目指定講習）を開設した。

○受講対象者：社会教育主事となる資格を得るために修得すべきすべての科目を既に修得している方が対象。

○開講科目：生涯学習支援論／社会教育経営論

○講習料：2科目 32,000円

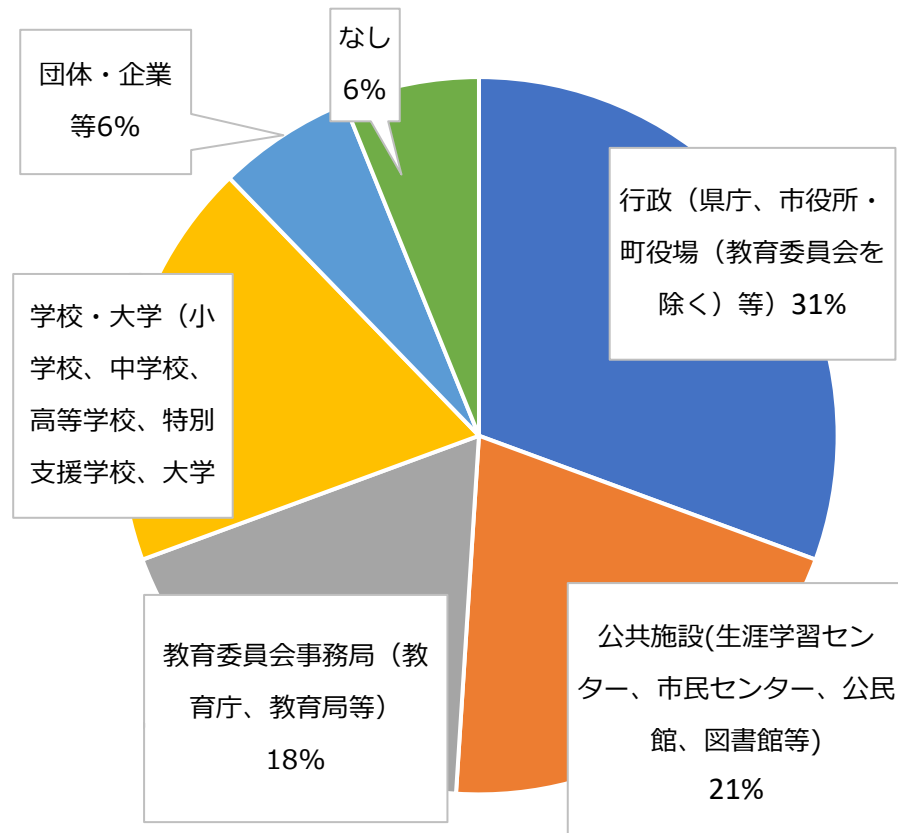
	2022年度	2023年度
応募期間	2022年9月1日（木）～9月15日（木）	2023年7月3日（月）～7月13日（木）
受講期間	2022年11月1日（火）～2023年2月4日（土）	2023年9月1日（金）～12月2日（土）
受講定員	40名	50名
応募者数	145名	141名
受講決定者数	50名	50名
受講辞退者数※	5名	3名（先に2名が辞退し、2名を繰上当選。 その後更に1名が辞退した。）
受講者数（最終）	45名	49名

※辞退理由	2022年度（5名）	2023年度（3名）
	・ 申込み情報が不正確（連絡先等がダミー） 1名	・ 個人的な事情により辞退 2名
	・ 申込み後音信不通 2名	・ 受講資格なしのため辞退 1名
	・ 受講資格なしのため辞退 1名	
	・ 家庭の事情 1名	

2. 2023 年度受講生属性

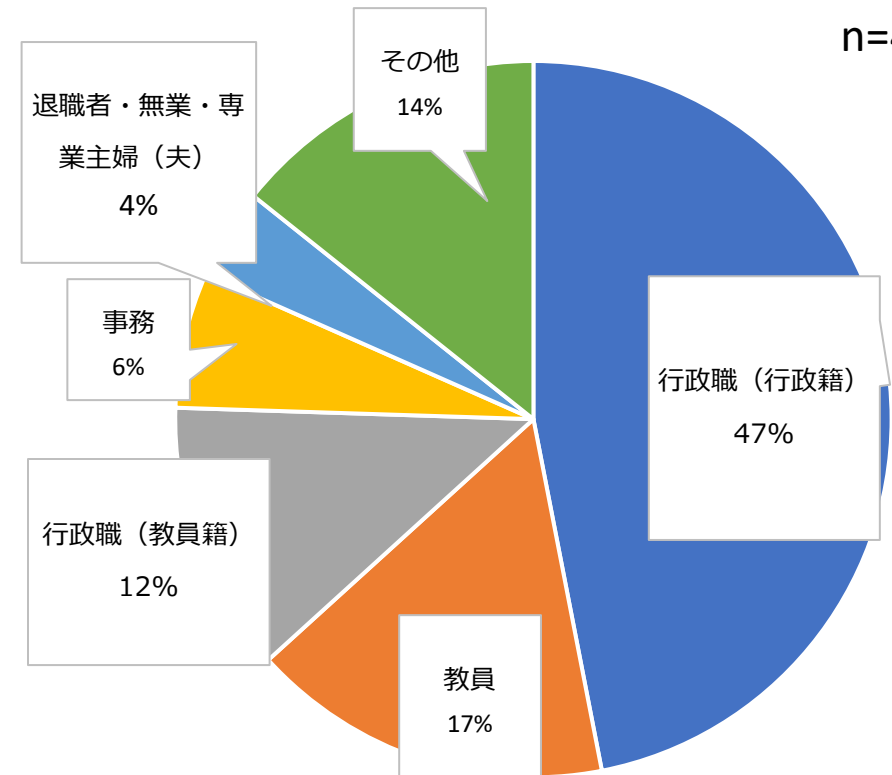
所属先

n=49



職種

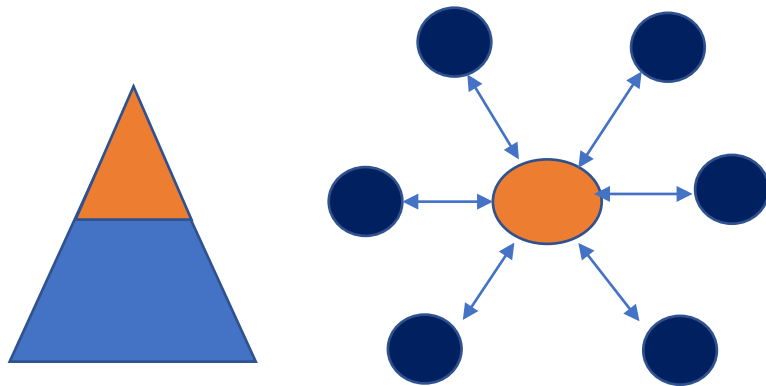
n=49



3. 新しい演習形態へのチャレンジ

1. 新たな称号「社会教育士」

社会教育主事（指導）⇨社会教育士（支援）



縦構造

ネットワーク

マインド・セットを変える

2. 受講生の多様性 (意識の格差)

行政職員・学校教員⇨企業、NPO・・・

- ・所属の多様性
教育委員会、学校、社会教育施設
(図書館、公民館、博物館)、病院・・・
- ・職種の多様性
行政職・教員、企業、NPO、指定管理業者、退職者などなど・・・
- ・身分の多様性
正規雇用、非正規雇用、契約職員・・・

一体感を醸成する

3. オンラインでの演習

一定時間・対面での演習
⇨短時間（3H）・オンライン

受講生との関係性構築：

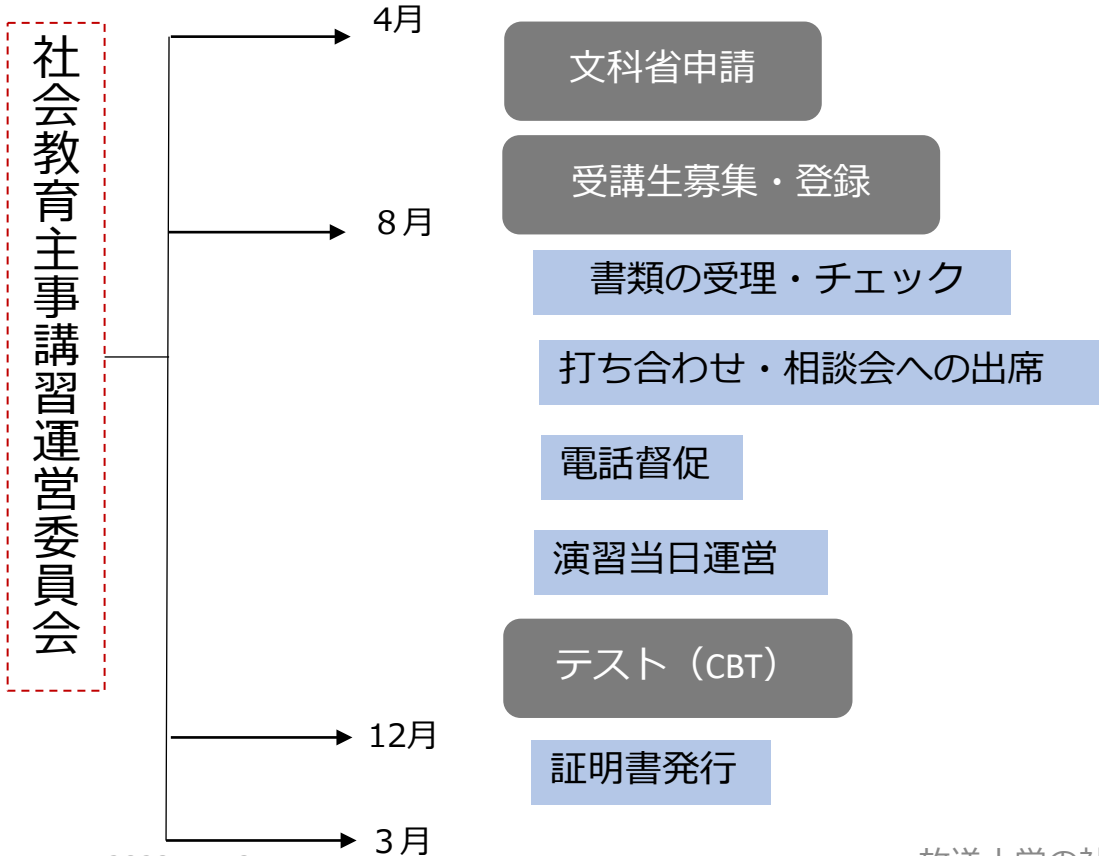
- ・説明会
- ・接続確認
- ・チェック・イン/チェック・アウト
- ・個別相談

受講生とのラポールを形成する

4. 運営体制

学内体制

○事務・運営対応：連携教育課



演習実施体制

- 演習実施主任講師：
吉田敦也（徳島大学名誉教授・放送大学客員教授）
- 演習担当講師：
荻野亮吾（日本女子大学准教授）
似内遼一（東京大学工学系研究科（都市計画）助教）

接続確認・アイスブレイク（吉田）

ノンフォーマル・
セッティング

Zoomによる事前相談会（3回）

（個別Zoom相談、電話、メール）

演習内容の検討・実施（荻野・似内+TA）

フォーマル・
セッティング

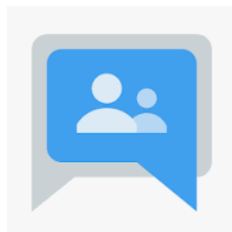
事前課題提示・チェック

演習当日（3時間）

5. オンライン演習のツール

Google アカウントの取得

グーグル・グループ (GOOGLE GROUP)



Google Workspace

- ジャムボード (JAMBOARD)



ズーム (ZOOM)



- パドレット (Padlet)



6.環境設定：Gmailアカウント調査('23)

質問 回答 52 設定

●'23 放送大学社会教育主事講習受講のためのインターネット接続環境等の事前調査

本調査は、インターネットライブ形式で実施される放送大学社会教育主事講習ファシリテーション演習（10月29日(日)）にご参加いただくために、みなさんの受講する場所（自宅等）のコンピュータ等を含めたインターネット接続環境や会議運営ツールの使用経験についてお聞きするものです。

放送大学社会教育主事講習では、教材掲載や課題提示のためにGoogle classroom、連絡網のためにGmailによるメーリングリストを用います。この目的のために個人用Googleアカウントの取得とGmail等の使用が必要になります。Googleアカウントを持っていない、あるいは使用していない場合、もしくはZoomの使用経験がないなどの場合には、事前に必要なサポートを行います。

本調査は、このサポート体制をつくるためにお聞きするものですので、**9月20日(水)**までに必ずご回答ください。

I. 氏名*

記述式テキスト（短文回答）

II. あなたは、プライベートに使用できるGmailアドレスを持っていますか？（職場から付与されているものは除きます。）*

- 1. 持っている
- 2. 持っていない
- 3. わからない

【重要】SQ1. プライベートに使用できるGmailアドレスを「持っている」と答えた方にお聞きします。

あなたがプライベートに使用できるGmailのアドレスを教えてください。

（持っていない場合は無記入で結構ですが、新規取得可能な場合は取得してそのアドレスをお教えてください。）

※このGメールを用い、演習ツールとして、Google workspace（Google classroom, Jamboard, Google form, Gmailによるメーリングリストなど）を使用します。

記述式テキスト（短文回答）

SQ2. プライベートに使用できるGmailアドレスを「持っている」と答えた方にお聞きします。

あなたは、そのGmailをどの程度使用していますか？

(「持っていない」「わからない」と回答された方は、「持っていない・わからない」をクリックしてください。)

- 1. 日常的に使っている (スマホでも着信チェックしており1～2日以内に返信可能)
- 2. 時々使っている (パソコンを開かない限り着信チェックせず返信には3日～1週間を要する)
- 3. たまに使う程度 (アドレスは保有しているが通常は使っておらず返信には1週間以上を要する)
- 4. 使っていない
- 5. 持っていない・わからない

SQ3. プライベートに使用できるGmailアドレスを「持っていない」「わからない」と答えた方にお聞きします。

Gmailアドレス取得のため、どのような形でのサポートが必要ですか？

記述式テキスト (短文回答)

III. あなたは、プライベートに使用できるZoomアカウントを持っていますか？ *

- 1. 持っている
- 2. 持っていない
- 3. わからない

IV. あなたは、次のようなデジタルツール等を使ったことがありますか？ 1から4のそれぞれについて、あなたにあてはまるところをクリックしてください。 *

	よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない
1. Zoom (ズー...	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. Google classr...	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. Jambord (ジ...	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. Padlet (パド...	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

V. 下記日程のZoomによる事前相談会について、あなたが参加可能な日時をすべてチェックしてください。 *

※最低1回はご参加いただく必要があります。

- 第1回 2023年10月7日 (土) 10時～12時
- 第2回 2023年10月14日 (土) 10時～12時
- (予備日) 第3回 2023年10月15日 (日) 10時～12時

VI. 今回のオンラインライブ形式の演習に参加するにあたって、ご不明な点や、必要としているサポートの内容など自由に書いてください。

記述式テキスト (長文回答)

7. 事前学習



クラスコード
e3rmpvp

期限間近
提出期限の近い課題はありません
すべて表示

- クラスへの連絡事項を入力
- 吉田敦也 (アツヤ) さんが新しい質問を投稿しました: 呼びかけ (zoomテストご協力お願い10/2... 10月18日
クラスのコメント 1 件
- 吉田敦也 (アツヤ) さんが新しい質問を投稿しました: 第3回事前相談会 (最終回) は明日です 10月14日 (最終編集: 10月15日)
クラスのコメント 1 件
- 荻野亮吾 さんが新しい資料を投稿しました: 課題3の提出手順 10月11日 (最終編集: 10月11日)
- 吉田敦也 (アツヤ) さんが新しい課題を投稿しました: 第2回事前相談会まもなくです 10月10日 (最終編集: 10月10日)
クラスのコメント 1 件
- 吉田敦也 (アツヤ) さんが新しい資料を投稿しました: ジャムボードの使い方 10月5日

事前課題

- 【事前課題1】 クラスメイトへ自己紹介... 27 期限: 10月6日
- 【事前課題2】 ファシリテーション能力の... 3 最終編集: 10月7日
- 【事前課題3】 シナリオづくりをしてみよう 6 期限: 10月15日 20:00
- ジャムボードを使って「自己紹介2」や... 2 最終編集: 10月5日
- 事前相談会まもなくです 9 最終編集: 10月3日
- 第2回事前相談会まもなくです 1 最終編集: 10月10日
- 第3回事前相談会 (最終回) は明日です 1 最終編集: 10月15日

事前学習用資料

- 【事前学習】 教科書の重点学習箇所 投稿日: 9月20日

配布資料

- 課題3の提出手順 最終編集: 10月11日
- ジャムボードの使い方 投稿日: 10月5日
- 個人のプライベートな Google アカウ... 2 投稿日: 9月30日
- シナリオづくりの説明資料 投稿日: 9月20日
- メールの名前表記について 最終編集: 9月30日

IV. 質保証

1. 学習内容（全体構成）

印刷教材 & 放送教材による学習



+

ファシリテーターハンドブックによる学習

- ①メールによる接続環境アンケートへの回答、
- ②Googleグループ化への対応、
- ③電子ツール操作体験と自己紹介、
- ④事前学習課題2点の提出、
- ⑤事前相談会への参加と受講者間の関係構築



+

演習参加
(本日)

- ⑥オンライン型双方向ファシリテーション演習にリモート参加
- ⑦「グループでの対話の有効性に関する調査」に入力 (演習中)
- ⑧自己評価シートに入力 (演習中または演習終了後20:00迄)

+

【提出】
(11/6 12:00迄)

- ⑧シナリオシート (修正可能)

※提出先は受講システム (インターネット配信公開講座システム)

+

【受験】

(予約: 12/2迄)
(受験: 12/5迄)

CBTによる修了テスト

演習当日または終了後に行うもの

2. 演習内容のスキルチェック

【事前課題】

質問 回答 61 設定



ファシリテーション能力自己評価

あなたの現在のファシリテーション能力のレベルを自己評価してみましょう。
グループ分けの際にも考慮しますので、10月15日（日）20:00 までに回答をお送りください。
教科書の1章を読み、p.46の資料1.3もご確認の上、ご回答ください。

(公開する場合は統計的处理をし、お名前を公開することはありません)

I. 氏名 *

記述式テキスト (短文回答)

II. ファシリテーション能力自己評価
【レベル1】

1. ファシリテーションの概念、価値観、信念を理解している。
(*教科書1章のp.18-22)

	1	2	3	4	5	
不足している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	完全習得している

2. 傾聴、言い換え、問いかけ、要点の要約に長けている。
(*教科書1章のp.23-24)

	1	2	3	4	5	
不足している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	完全習得している

【演習当日】 ファシリテーション演習・自己評価シート

質問 回答 設定

【提出】ファシリテーション演習自己評価シート ('23)

このシートはファシリテーション演習の振り返りを行うものです。あなたに当てはまるところをチェックしてください。内容は、I. 「自己評価」(事前学習、演習参加態度、習得されたもの)、II. 「演習への感想」に関するQ1からQ15までの17項目 (SQ2項目を含む) からなります。

なお、講習を修了するためには、①自己評価シート(このシート)の提出(入力送信)、②事前学習で提出したシナリオシート(修正可能)の「放送大学インターネット配信公開講座システム」への提出、③「修了テスト」(CBT)の受験、の三つの要件が必要です。ご注意ください。

頑張って最後まで受講してください。

メールアドレス *

有効なメールアドレス

このフォームではメールアドレスが収集されます。 [設定を変更](#)

氏名

記述式テキスト (短文回答)

I. 自己評価
①事前学習
Q1. オンラインによる「放送教材」視聴や「印刷教材」による学習、および演習を通じてファシリテーションの考え方を理解した。

	1	2	3	4	
全くそうでない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	非常にそうである

Q2. 演習の事前課題に積極的に取り組み期限まで提出した。

	1	2	3	4	
--	---	---	---	---	--

3. 感想

【ファシリテーション演習・自己評価シート('22)】

- ・「日本全国の遠くにいる方とファシリテーションでつながることができるという経験、つながる手法を学ぶという経験、考えを共有し対話するという経験は、自分自身の宝物となります。」
- ・「ZOOM演習の始まる前の紹介動画から多くの方が多くの時間をかけて成り立っている実感が得られ感動しました。接続準備のZOOMの際、皆様のお顔が拝見できましたが、皆様笑顔で失敗も受け入れてもらえる、チャレンジできる場なんだと実感できて当日に臨む事ができました。」
- ・「一言でいうと、「楽しかった！」 この演習の参加が自身の自信につながったと思う。今後も学習や経験を深めて、ファシリテーションのスキルを向上させたいという気持ちが高まった。講師やTA、事務局の皆様に感謝申し上げます。」

【昨年度参加者へのインタビュー】

1. 放送大学選択の理由
 - ・通信制で受講できる一部科目指定講習であること（対面だとハードルが高い）。
 - ・コンピュータ抽選であること（とにかく申し込めば客観的に結果が出る）。
2. 良かった点
 - ・基本的には満足、カリキュラムにはスッと入っていきける。
 - ・事前説明会に出たことで安心感が出て大変良かった。
 - ・面倒見が良い。
 - ・放送大学の内容は中立的で王道で好感が持てた。
3. 苦労した点
 - ・学習のペースを掴むまで大変であり、教材の意図を汲み取れないところがあった（試験対策が取りづらい）。
 - ・最終テスト（CBT）で合格するかプレッシャーがあった。
 - ・演習の展開が早く、いっぱいだった（遊びの部分が欲しい）。
 - ・対面ではないと演習時に受講者の背景が見えづらい。
4. 改善点
 - ・ファシリテーションの意義を解説する内容が欲しい。
 - ・シナリオ作りは現場経験者には良いが、初心者や大学養成課程修了者で実務を経験していない者には難しいのではないかと感じる。

23.10.15 実施（地方自治体職員）

V. 課題と方向性

1. 課題

事務局が抱える課題

1. 提出書類（紙）の問題

必要書類は紙での提出であるが、証明書等の不備が多く再提出となるケースが多々ある。再度大学等へ申請してもらい再提出となることも多く、作業に時間が掛かり煩雑となる。

受講要件や資格の制度について十分に理解いただけていない点は苦勞をする。

2. 電話やメールでのやり取り

申込みから入金を経て実際に受講が始まるまでの期間において、申込者と何度も連絡を取る必要があるが、連絡手段がメール中心となるためレスポンスが悪く、連絡が取れずに作業が滞ることが多くある。また、社会人であるため日中の電話にも反応が薄い。各種締切等の期限までに対応しなければならない場合に連絡がとりづらい点は苦勞が多い。

3. 「社会教育士」の資格について

講習終了後に講習の修了証明書を送付するが、受講者は「社会教育士」という資格の認定証のようなものをもらえると誤解している方が多く、修了後に問い合わせが多く発生する。

受講者においても制度の理解が十分でない点は困る点である。

実施体制に関する課題

1. 放送大学のICT環境

- ・オンライン演習用プラットフォームが未整備
- ・共通プラットフォームの設定（Google）
- ・セキュリティの強固さ
- ・古いPC機材
- ・WiFi使用の不便さ

2. 体制基盤

- ・学内体制の構築（担任専任教員数、事務担当職員）
- ・短時間・オンライン演習を効果的にする細部工夫のためのディスカッション機会
- ・シャードワーク/エクストラワークへの金銭的換算
- ・属人的資質・能力への依存
- ・担当者の仕事の集中
- ・安定的持続可能性

3. 多様な学生への対応

- ・ターゲット特定の困難
- ・多様な受講生のICTリテラシー水準への対応（Zoomの未使用、Gmailアドレス取得）
- ・目標の相違：実質的能力付与vs要件充足

2. オンライン演習の特徴とその対応

	オンライン・ミーティングの課題	放送大学の対応
1	互いの表情が見えず一体感を感じにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・書類授受における電話やメールによる対応（事務） ・Google classroomへの事前学習 課題の提示：基礎知識の学習機会 ・演習使用のシナリオ作成過程における双方向性の指導 ・事前説明会の開催（接続確認・アイスブレイク） ・演習におけるタイム・マネジメントの徹底 ・TAの関与
2	やり取りがぎこちなく話し合いが一方向的な情報共有になりがち	
3	話す機会を待つ場合に停滞し時間を浪費	
4	関係のない話し合いを黙ってきく状況が生じる	
5	非言語的な手がかりを得るのが難しい	
6	意見の相違が生じた場合の対立処理のための支援が難しい	
7	フリップチャートがないため要点筆記の作成ができない	
8	参加者が他の作業をしている可能性があり、集中できない可能性がある	
9	他の参加者に気づかれることなく出入りできる	
10	事前配布の資料以外の新たな情報の手渡しが難しい	



「オンラインミーティングのファシリテーション」『ファシリテーター・ハンドブック』（前掲書）pp.207-208. から内容を摘記。

【課題】：オンライン演習の質を維持するには受講人数の拡大に限界あり
 →オンライン教材(人数増に対応可能) + 演習
 (オンライン演習or対面演習併存の検討要)